

東北大学金属材料研究所

所長に就任した

ふるはら ただし
古原 忠氏

100年余の歴史を有

する同研究所で、鉄鋼研究を専門とする所長就任は、3代目の村上武次郎氏以来となる。「金属全般、半導体、セラミックスなど広範な材料を研究する本所の中でも、鉄鋼

「鉄鋼研究と人材育成で貢献」

は大きな研究の柱の一つ。鉄鋼業界には東北大OBも多く、本所と企業のかかわりは深い。「産後には迫っている」と指摘

日本の鉄鋼業について素と強調する。「エネルギー効率の高い新しい製鉄技法と、それを用いた材料開発で世界をけん引してほしい。CO₂削減業は学問の道場なり」とし、国際競争力を維持するために大学での人材育成が重要と説く。「マルチマテリアル化が製法と異なる課題がある中、鉄の特色や魅力を引き出し、新用途塑性加工や熱処理、合金

に応じた技術展開が求められる。鉄は歴史ある材料だが、研究の余地は残されている。これまでの研究で築いた技術力を次世代に継承し、どう向上させるかは産業界だけでなく大学にとっても課題だろう」。

また、環境技術力の高

設計による課題解決に貢献していきたい。

自身は「理学と工学がマッチした感じに興味をひかれた」。もっとも企業が開発に一層コミットすれば、新たなニーズ「実家が金属加工の会社・シーズの発見、共同研究の余地が生じる」とし、レスや穴あけを手伝った技術相談や技術者育成をこともあり、これが原点通じた産学連携にも引きかち」とほほ笑む。

(小室 慎)

略 歴

1983年京都大学工学部金属加工工学科卒業、85年同大学院工学研究科修士課程金属加工工専攻修了、89年米国カーネギーメロン大学大学院博士課程金属工学・材料科学専攻修了、Ph.D取得。京都大学工学研究科助手・准教授を経て2005年東北大学金属材料研究所教授に着任。09年同所長、15年同付属新素材共同研究開発センター長などを歴任。18年金属材料研究所副所長を経て20年4月から現職。趣味は読書と音楽鑑賞。モットーは「余りこだわらず、イーजीに思考する」。1960年12月21日・大阪市生まれ。